



あたらしい目黒区は、 あたらしい目黒区長でつくる 山本ひろこ

目黒区議 2期・3児の母

プロフィール



- 1976年生まれ、元ITエンジニア
- 家族は目黒区東山小出身の夫と3人娘
- 広島出身→埼玉大学卒
→東洋大学院公民連携学修了
→東京工業大学院博士課程後期（在籍中）

子ども時代

ショートカットで男の子の服を着ていたような活発な幼少期で、中学では漫画とアニメに夢中になり、高校は不条理な無視を受けて孤独な3年間を過ごすも、上京することだけを夢見て、X JAPAN や Jリーグに熱中していた。

学生時代

大学入学を機に上京。
自由人となりバイクとバンド活動に明け暮れた。

就職水河期

保険セールスから WEB デザインまで仕事を掛け持ちしながら、休みを取ってはバックパッカーとして海外放浪を繰り返す。

転職

元々好きだった IT関係の専門職に就きたくて猛勉強。
IT系資格をいくつも取り、20代後半で外資金融企業の ITエンジニアに。

結婚

目黒区東山小出身の夫と結婚し、3姉妹の母となる。
夫が障害者となり、健康管理士取得。

政治行政

保育園入所率ワースト1の目黒区で、3人娘のために4年連続で保活で苦しんだ経験をきっかけに、区議選への出馬を決意。以来、「子どもにツケをまわさない」社会に向けて、ひた走り続けている。

議員に

2015年目黒区議会議員選挙に2,350票で初当選(8位)。
2019年に5,202票で2期目当選(1位)。

区長選へ

2020年4月の目黒区長選挙への挑戦を表明。

趣味

筋トレ、バイク、60～70's 洋楽。無添加マニア。

将来の夢

娘たちとのツーリング。

4月19日には、4年に一度の目黒区長選挙が行われます。
前回区長選の投票率は、たったの26%!!
あたらしい目黒区をつくるのは、投票をするあなたです。



目黒区議会本会議
代表質問にて

目黒区長選挙をめぐる動き

2月18日 青木英二目黒区長が、目黒区議会本会議・所信表明にて、5選出馬の意向を明言。初当選時に3期12年までとしていた自らの選挙公約を破って、すでに4期16年を務めており、さらに5回目を目指すとのこと。

2月19日 山本ひろこさんが、目黒区議会本会議の代表質問および記者会見にて、目黒区長選挙への挑戦を表明。
立憲民主党・日本共産党など立憲野党が支援にまわり、無所属・無会派の目黒区議や「あたらしい目黒区長をつくる会」「区政を変えよう目黒区民の会」などの各団体が応援する意向を表明。

**目黒区長選出馬
山本区議が表明**
4月の目黒区長選に、同区(43)の山本区議(43)が19日、無所属で立候補することを表明した。山本氏は2015年に区議に初当選し、2期目。この日の会見で、LINEを活用した双方の情報発信や児童相談所の開設、学校給食の無償化を政策に掲げた。
同区長選には青木英二区長(64)が5選を目指して立候補を表明している。
(2月20日付 朝日新聞より)

あなたと一緒に、あたらしい目黒区へ。 山本ひろこが、この春の目黒区長選挙に挑戦します。

この1年間、目黒区監査委員として、老朽化で苦しむ学校現場の現状を目の当たりにしてきました。区内の大半の学校が築50年を超える中で、先生たちの手間が取られたり、不便や危険な状況でも使用を継続せざるを得なかったり、学校現場が抱えている困難は、これ以上先送りにできる状況ではないのに、目黒区は学校の老朽化にどう対応するかを決めることさえできずにいます。

2年前に目黒区で起こった痛ましい児童虐待死事件では、すべての子を持つ親が胸を痛めている中で、今の目黒区長は児童相談所開設などの積極的な動きを起こそうとしません。一方で、学童保育クラブは、定員の倍の子どもたちを受け入れたために異常な過密状態となり、家庭的な保育どころか、安全管理で手一杯です。

昨年秋の台風15号・19号の際には、防災無線がまったく聞こえない中、近隣区からは携帯のエリアメールが鳴り続けるのに、目黒区では一切発信されず、区民は情報不足で不安と混乱に陥りました。住民の命を守る自治体としての責任が欠如していると言わざるを得ません。

女性人口が多く、多才な住民が住み、東京でも有数のブランド力を誇るはずの目黒区は、4期16年の多選で居座り続ける区長のリーダーシップの欠如により「特徴がない」「魅力に欠ける」街になってしまっています。また、長期的な財政計画が適切に行われなかったせいで、数年前には財政難に陥り、短期間で一気に180億円ものコストカットを行い、ギリギリまで人員も削減しました。この16年で役所も地域の施設も学校も疲弊しています。

あたらしい目黒区は、あたらしい目黒区長でつくる。

幅広い層の住民との対話をもとに、オープンで未来志向のワクワクする個性的な地域社会を、そして、子どもも高齢者も障害者も、誰ひとり取り残さずに共に学び支え合う、文化の香り豊かでやさしい目黒区をつくります。

2020年2月19日
山本ひろこ



山本監査委員

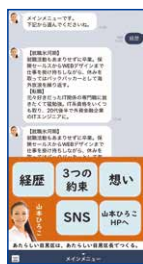
山本ひろこの 決意

山本ひろこの3つの約束

1 つながる区長へ

LINEで双方向の情報発信を

LINEは、全国8,200万人が利用しており、少なくとも70%以上の目黒区民が使用していると推計され、生活インフラとして定着しています。皆が使うアプリを通じて情報発信をするために、目黒区のLINE公式アカウントを開設し、区政情報から災害時の緊急情報まで総合的に発信します。リアルタイムに区民の声を受け取れる双方向性もLINEのメリットであり、各種行政手続きにも活用できます。もちろん、スマホを持たない人に対する配慮、そして情報発信をLINEのみに頼ることのリスクにも対処し、持ち寄りランチ会など懇談の場も作ります。



2 児童虐待ゼロのまちへ

ゆるふわサポートから 児童相談所まで

目黒で起こった児童虐待死事件から2年。虐待を芽から摘むためには、さげなく相談でき自然に寄り添える、ゆるふわサポートから、最後の砦となるゲートキーパー的な役割まで担える、一貫した体制が必要と考えます。そこで身近な児童館や図書館に、子ども家庭支援センターを組み込んでいき、それらの拠点としての児童相談所を設置します。



3 学校給食の無償化へ

目黒区からスタートを!

どのような家庭環境であつても、子どもたちが安心して目黒区の美味しい給食を食べられるように、学校給食の無償化をスタートさせます。既に全国80の自治体で実施しており、首都圏においては目黒区が先陣を切りたいと思います。無償化によって、未納問題や学校現場での集金業務にまつわる無用な事務負担を取り除けるうえ、子育て家庭にとっては年間約5万円の負担軽減となり、大きな少子化対策にもなります。目黒区内の小中学校での実施で、約7.5億円と試算されており、段階的な無償化実施を進めていきます。

